資料

臨地実習において学生が教員に承認されたと感じた内容とその思い

Details of the circumstances and associated thoughts of students upon feeling approval from their teachers during clinical nursing practice

川島良子[1)]，馬場美幸[2)]
Ryoko Kawashima[1)], Miyuki Baba[2)]

キーワード：臨地実習，教員，看護学生，承認
Key words：clinical nursing practice, teacher, nursing students, approval

要旨

【目的】学生が教員に承認されたと感じた内容とその思いについて明らかにする．
【方法】基礎看護学実習を終えた29名に半構造化面接を行った．調査内容は，援助を実施する際に教員から認められたり，褒められたりした内容とその時に感じたこと，またはその思いである．意味内容の類似性によってサブカテゴリ，カテゴリを抽出した．
【結果】学生が教員から承認されたと感じた内容には，〔援助の手際や工夫と成果を教員が認めてくれた〕〔記録の記載で教員が褒めてくれた〕〔学習の努力を教員が認めてくれた〕等であった．承認されたと感じた内容に対する思いでは，〔教員が認めることで嬉しい気持ちになった〕〔褒められることが次の学習につながる〕〔認められたことを大事にしたい〕等であった．
【考察】学生が教員から承認されることは学生の実習意欲を高めることに繋がる．褒めることも，学生の気持ちや実習への取り組みを支えることが明らかになった．

Ⅰ．緒言

臨地実習（以下実習）において，教員は看護学生（以下学生）の指導を行い，実習の目標を達成できるように関わっている．その際の指導を学生がどのように受け止めるかによって，学生の学習に影響を与えるものと考える．学生が教員の指導をどのように受け止めたかについては，黒田ら（2010）が自己の成長につながった指導や受け入れられなかった指導などを明らかにしている．また，塩川ら（2002）は，臨地実習の学びを促進させる教員の関わり方について明らかにし，「精神的サポート」や「ケアへの意味づけ」などが学習を促進させることを明らかにしている．

学生が看護実践能力を身につけて看護の学びを深めることができるようになるためには教員の働きかけは必須であると考える．そこで，研究者は基礎看護学実習における日常生活援助の指導に対して学生から評価してもらい，援助計画に対しての指導や実習中に役立ったと思う指導で「患者の状態や状況に沿う援助に導いてくれたり，発問により，援助の目的や必要性を確認してくれた」などを明らかにした（川島と馬場：2017）．役立った指導をさらに，学生から見た教員の承認について明らかにしたいと考えた．教員が学生をどのように承認し，その学生の思いを明らかにし，教員の学生への承認の方法についての一助を得たいと考えた．そのことは，学生の学習の促進につながるのではないかと考え今回この研究に取り組んだ．そこで，実習において教員が学生に対してどのようなことに対して承認しているか，その時の学生の思いを明らかに

2019年8月5日受付；2019年10月23日受理
1）新潟県立看護大学　Niigata College of Nursing
2）元愛知県立大学看護学部・名古屋掖済会病院　Formerly Aichi Prefectural University School of Nursing & Health・Nagoya Ekisaikai Hospital

し，学生への影響について検討する．教員が学生を承認する内容と学生の思いを明らかにすることは，学生自身がよかった行動を振り返ることにつながると共に，自信につながることで学生が目的に到達することを支えることができる．また教員が学生の学習環境を整えることにつながると考える．

Ⅱ．研究目的

学生が教員に承認されたと感じた内容とその思いについて明らかにする．

用語の定義

承認されたと感じた内容：学生が教員から褒めてもらった内容や認められた内容とした．

Ⅲ．研究方法

１．研究デザイン

研究目的から，指導場面について聞き取り，学生からの評価を得たいと考え，質的記述的研究とした．

２．調査期間

平成 22 年３月および平成 23 年３月

３．研究対象

初めて看護過程を展開し日常生活援助の援助計画を実施する学生を対象とし，基礎看護学実習を終えた 29 名で，研究に同意が得られた看護専門学校（３年課程）の１年生．

４．調査方法

インタビューガイドを用いて，「援助を実施する際の指導で褒めてもらったことまたは認めてもらったこと，その時の思い」を半構造化面接を実施した．面接場所は対象者が所属する教育機関の個室等で個別に面接し，面接時間は，16 分～ 61 分で平均 30 分であった．

５．調査内容

援助を実施する際に教員から褒められたり，認められたりした内容とその時に感じた思い．

６．分析

逐語録を作成したのち，意味内容を損なわないように要約し，１つの意味内容に従ってコード化した．教員に褒められたり認められたりした内容と褒められたり認められた時に感じたこと，思いに分けて意味内容の類似性によってサブカテゴリ，カテゴリを抽出した．カテゴリは質的研究者３名で意見が一致するまで検討した．

Ⅳ．倫理的配慮

研究対象者の所属する教育機関の長に学生が研究に参加することに対する許可を得た．研究対象者へは，説明文書および口頭で研究の意義，目的，協力内容，研究参加は自由であること，不参加でも不利益は被らないことなどを説明し，同意書をもって同意を得た．本研究は愛知県立大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（21 愛県大管理第 12-32 号）．

Ⅴ．結果

１．承認されたと感じた内容

教員から褒められたり，認められたりした内容は 41 のコードを抽出し，８のサブカテゴリ，４つのカテゴリから構成された．カテゴリを〔　〕，サブカテゴリを＜　＞で，コードは「　」で示す．

１）援助の手際や工夫と成果を教員が認めてくれた

このカテゴリは３つのサブカテゴリから構成された．＜援助がスムーズにできるようになったことを認めてくれた＞は「初回はうまくプライバシーが保てなかったがバスタオルを工夫して行ったら次には先生から『今回できてすごく良かった』と言われた」などと認められることで承認されていた．＜学生が考えた実施方法の工夫について認めてくれた＞は「患者は意識障害があり血圧測定を嫌がることもあり悩んだ．初めは声掛けだけだったが，ある時血圧計を見せて『今から血圧を測ります』と言ったら患者が腕を出してくれて一人で測れた．その時に『よかったね』と言ってくれた」や「麻痺があり下肢の体温の温度差がある患者に対して下肢を熱布清拭の要領で温めることを考えたところ教員から『そのように考えることはよいこと』と認められた」などと認められることで承認されていた．＜患者への学生の援助によって患者が変化したことを認めてくれた＞は「患者が食事ではご飯とみそ汁しか摂取していなかったが，患者の好みを聞き実習の最後には副食も半分摂取できるようになり『食事が楽しみだ』と変化した．『このように変化したことはよかった』と褒めてもらえた」と褒めてもらうことで承認されていた．

２）記録の記載で教員が褒めてくれた

このカテゴリは，２つのサブカテゴリから構成された．＜記録の記載内容を認めてくれた＞は「計画を立案しアセスメントをする際に看護の方向性を記載する欄に，清潔のことだけでなく寄り添って色々な話を聞くと記載したら褒めてもらった」などと認められていた．＜記録のコメントを通して認めてくれた＞は，「よいところに気づきましたねと記載してあった」などと認められることで承認されていた．

3）学習の努力を教員が認めてくれた

このカテゴリは1つのサブカテゴリから構成され，＜自己学習してきたことを認めてくれた＞で「自己学習について褒めてもらった．『ちゃんとやっているね』と言われた」などと褒めてもらうことで承認されていた．

4）学生のよいところや素質を認めてくれた

このカテゴリは2つのサブカテゴリから構成された．＜学生のよいところを認めてくれた＞は「患者の変化について，『視点を持っているね』と言われた．『ほかの人より広い視野で見れている．あなたのよいところです』と言われた．グループのみんなを見れているねと褒められた」などと褒められることで承認されていた．

＜「あなたにはできる」と励まして認めてくれた＞は「血圧測定がうまくできなくて何度も実施を申し出た．先生は『経験がないのでこれから上手になるし，今はできなくても絶対にあなたならできるようになるから』と言われ安心した．先生は最後まで指導してくれた」などと励ましが学生にとっては承認されていることであった．

2．承認されたと感じた内容に対する学生の思い

学生に承認された時の思いは，43のコードを抽出し，4つのカテゴリ，11のサブカテゴリから構成された．

1）教員が認めることで嬉しい気持ちになった

このカテゴリは3つのサブカテゴリから構成された．＜評価してもらえて嬉しい＞は「いろいろな可能性がある中でそういう考え方も良いと何らかの評価をしてもらったということが嬉しい」などと回答していた．＜教員から認められることで嬉しい＞は「自分ではよいところと考えていなかったが，先生から言われるとよいところが自覚できる．そのことが他の患者にもよく気づいてみようという気持ちになる．その先にも役立つので認めてもらえると嬉しい」などと回答していた．＜考えたことが認められてうれしい＞は「自分の言ったこと，考えたことがよかったと嬉しかった」などと回答していた．

2）褒められることが次の学習につながる

このカテゴリは3つのサブカテゴリから構成された．＜やり直しがなくてよかった＞は「時間がないのでやり直しがなくてよかったという気持ち」などと回答していた．＜次のステップアップにつながった＞は「褒めてもらうと頑張ってよかったと思う『これがんばったらいいね』と言われると不足な部分がわかり次につながった」などと回答していた．＜頑張ろうという意欲が出る＞は「褒めてもらうと次に頑張ろうと思える」などと回答していた．

3）認められたことを大事にしたい

このカテゴリは1つのサブカテゴリから構成され

表1　承認されたと感じた内容

カテゴリ	サブカテゴリ	具体的な内容（代表的なコード例）
援助の手際や工夫と成果を教員が認めてくれた（20）	援助がスムーズにできるようになったことを認めてくれた（13）	初回はうまくプライバシーが保てなかったがバスタオルを工夫して行ったら次には先生から『今回できてすごく良かった』と言われた
	学生が考えた実施方法の工夫について認めてくれた（5）	患者は意識障害があり血圧測定を嫌がることもあり悩んだ．初めは声掛けだけだったが，ある時血圧計を見せて『今から血圧を測ります』と言ったら患者が腕を出してくれて一人で測れた．その時に『よかったね』と言ってくれた
	患者への学生の援助によって患者が変化したことを認めてくれた（2）	患者が食事ではご飯とみそ汁しか摂取していなかったが，患者の好みを聞き実習の最後には副食も半分摂取できるようになり『食事が楽しみだ』と変化した。『このように変化したことはよかった』と褒めてもらえた
記録の記載で教員が褒めてくれた（11）	記録の記載内容を認めてくれた（5）	計画を立案しアセスメントをする際に看護の方向性を記載する欄に，清潔のことだけでなく寄り添って色々な話を聞くと記載したら褒めてもらった
	記録のコメントを通して認めてくれた（6）	『よいところに気づきましたね』と記載してあった
学習の努力を教員が認めてくれた（4）	自己学習してきたことを認めてくれた（4）	自己学習について褒めてもらった．『ちゃんとやっているね』と言われた
学生のよいところや素質を認めてくれた（6）	学生のよいところを認めてくれた（2）	患者の変化について，『視点を持っているね』と言われた．『ほかの人より広い視野で見れている．あなたのよいところです』と言われた．グループのみんなを見れているねと褒められた
	「あなたにはできる」と励まして認めてくれた（4）	血圧測定がうまくできなくて何度も実施を申し出た．先生は『経験がないのでこれから上手になるし，今はできなくても絶対にあなたならできるようになるから』と言われ安心した．先生は最後まで指導してくれた

（　）内はコードの数

た．＜褒められたことを人に話したくない＞で「自分の頑張りを大事にしたい．自分の頑張りを人に話したくない」と回答していた．

４）教員が認めることで学生の心理に影響した

このカテゴリは４つのサブカテゴリから構成された．＜しっかりやろうと思えた＞は「励ましてくれたり，いろいろな情報を教えてくれてしっかりやらなければと思った」などと回答していた．＜実習を頑張った甲斐があった＞は「教員から褒められることで，実感がわいた．頑張った甲斐があった」などと回答していた．＜自信になった＞は「先生が認めてくれたことで，このようにすればよいという自信になった」などと回答していた．＜褒めてもらうことで心が落ち着いた＞は「病院に行くと何もしなくても緊張する．認めてもらうことでこころが落ち着く感じがした．頭を使ってよかった．病院にいると緊張するので認めてくれることで気持ちが落ち着く」などと回答していた．

Ⅵ．考察

１．承認されたと感じた内容

学生は，実習では張り詰めた中で学習を行っている．特に援助を行う際には，うまくできるか，失敗しないかなど緊張が高いことが推察できる．学生が教員から承認された内容には，〔援助の手際や工夫と成果を教員が認めてくれた〕，〔学習の努力を教員が認めてくれた〕であった．援助を実施しようとする学生にとって，教員の承認は励みになっていた．黒田ら（2010）の研究でも，「頑張りを評価する指導」は自己の成長につながった指導として示している．援助を行う学生の頑張りを認めることが学生の心理的な支えになる「頑張ろう」という意欲を高めることに繋がるものと考える．

また，学生の記録について，〔記録の記載で教員が褒めてくれた〕のカテゴリは，＜記録の記載内容を認めてくれた＞の「清潔のことだけでなく寄り添って色々な話を聞くと記載したら褒めてもらった」や＜記録のコメントを通して認めてくれた＞と承認されていた．記録には，学生が時間をかけて記載しており，学生の思考を確認でき，成績に直結した重要な学習の成果である．学生は教員に認めてほしいことが推測され，その記録に対して教員が評価やフィードバックすることが重要であると考える．学生の実習での学習成果や成長を教員が伝えることも必要な指導の在り方であると考える．

〔学生のよいところや素質を認めてくれた〕は＜学生のよいところを認めてくれた＞や＜「あなたにはで

表２　承認されたと感じた内容に対する学生の思い

カテゴリ	サブカテゴリ	具体的な内容（代表的なコード例）
教員が認めることで嬉しい気持ちになった（16）	評価してもらえて嬉しい（1）	いろいろな可能性がある中でそういう考え方も良いと何らかの評価をしてもらったということが嬉しい
	教員から認められることで嬉しい（12）	自分ではよいところと考えていなかったが，先生から言われるとよいところが自覚できる．そのことが他の患者にもよく気づいてみようという気持ちになる．その先にも役立つので認めてもらえると嬉しい
	考えたことが認められてうれしい（3）	自分の言ったこと，考えたことがよかったと嬉しかった
褒められることが次の学習につながる（12）	やり直しがなくてよかった（1）	時間がないのでやり直しがなくてよかったという気持ち
	次のステップアップにつながった（2）	褒めてもらうと頑張ってよかったと思う『これがんばったらいいね』と言われると不足な部分がわかり次につながった
	頑張ろうという意欲が出る（9）	褒めてもらうと次に頑張ろうと思える
認められたことを大事にしたい（2）	褒められたことを人に話したくない（2）	自分の頑張りを大事にしたい．自分の頑張りを人に話したくない
教員が認めることで心理的に影響した（13）	しっかりやろうと思えた（1）	励ましてくれたり，いろいろな情報を教えてくれてしっかりやらなければと思った
	実習を頑張った甲斐があった（4）	教員から褒められることで，実感がわいた．頑張った甲斐があった
	自信になった（3）	先生が認めてくれたことで，このようにすればよいという自信になった
	褒めてもらうことで心が落ち着いた（5）	病院に行くと何もしなくても緊張する．認めてもらうことでこころが落ち着く感じがした．頭を使ってよかった．病院にいると緊張するので認めてくれることで気持ちが落ち着く

（　）内はコードの数

きる」と励まして認めてくれた＞と承認されていた．学生の個々の特性は，実習指導の密接なかかわりから見えてくることもある．一学生としてその素質を肯定的に認める，学生の素質を見極める等，個々にあった指導を考える必要性を示唆していると考える．

２．承認されたと感じた内容に対する学生の思い

教員の承認に対する学生の思いは多様であった．〔教員が認めることで嬉しい気持ちになった〕との思いがあり，学生が学習成果を自覚できることに繋がっている．教員が学生の傾向や特徴を具体的に示すことで，学生の成長に繋がると考える．学生は，〔褒められることが次の学習につながる〕とも感じており，教員の指導が効果的に行われたことを示すものである．

＜次のステップアップにつながった＞の「『これがんばったらいいね』と言われると不足な部分がわかり次につながった」と学生の不足を補うことも教育的な効果を生むと考える．また，〔教員が認めることで学生の心理的に影響した〕とあるように，教員の承認は学生の意欲に影響していた．勝眞ら（2005）は学生が実習の場面で教員・指導者から共感や思いやりを感じた場面を，「傾聴的態度」，「受容的態度」，「尊重」，「承認」等であることを明らかにしている．本研究では学生は，＜褒めてもらうことで心が落ち着いた＞など，教員の存在を支えにしているとも考えられる．黒田ら（2010）でも，「気持ちを支える指導」が自己成長につながることを明らかにしているが，褒めることも，学生の気持ちや実習への取り組みを支えることが明らかになった．

Ⅶ．結論

１．学生が教員から承認されたと感じた内容には，〔援助の手際や工夫と成果を教員が認めてくれた〕，〔記録の記載で教員が褒めてくれた〕，〔学習の努力を教員が認めてくれた〕などであった．

２．承認されたと感じた内容に対する思いは，〔教員が認めることで嬉しい気持ちになった〕，〔褒められることが次の学習につながる〕，〔認められたことを大事にしたい〕などであった．

３．教員が学生を承認することで，学生の学習に影響を与えていることが明らかになった．

謝辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします．本研究は，平成 21 年度愛知県立大学研究奨励費の助成を受けて実施した．

なお，本研究の一部は第 36 回日本看護科学学会学術集会で発表した．

利益相反

本研究に関して開示する利益相反はない．

著者資格

RK は研究の着想とデザイン，データ収集と分析草稿の作成に貢献，MB はデータ分析，原稿への示唆に貢献，すべての著者は最終原稿を読み承認した．

文献

勝眞久美子，北出千春（2005）：看護学生が教員・指導者から体験する共感や思いやりの実態－臨地実習の場面から－，第 36 回日本看護学会論文集　看護教育，33-35.

川島良子，馬場美幸（2017）：基礎看護学実習における教員の日常生活援助の指導と学生が役立ったと感じた指導，愛知県立大学看護学部紀要，23，95-103.

黒田裕子，合田友美，小藪智子，他（2010）：教員による臨地実習指導に対する看護学生の受けとめ方，川崎医療短期大学紀要，30，23-27.

塩川華子，中島五十鈴，青井聡美，他（2002）：臨地実習の学びをより促進させる教員の関わり方－基礎看護実習Ⅰ終了後のアンケート調査から－，広島県立保健福祉大学誌　人間と科学，2（1），53-63.